公 認 会 計 士 講 座

財務会計ー入門Ⅰ　確認テスト

財務会計ー入門Ⅰ　確認テストは，学習開始時における，簿記・会計の知識レベルに応じて，どの簿記レベルから入学すべきか確認するためのテストになっております。

この確認テストにおきましては，日商簿記検定３級合格レベルの知識のある方向けの確認テストとなっており，各本科生コースの簿記レベル，Ａ・Ｂどちらで学習開始をすべきかが確認できます。

自己採点にて，
◎100点の方は，Ｂレベルから学習開始可能
○80点以上の方は，100点が取れる復習ができれば，Ｂレベルから学習開始可能
△80点未満の方は，Ａレベルから学習開始をお勧めいたします。
※上記は，参考となりますので，少しでも不安がある方，簿記の学習から期間が空いている方等，復習も兼ねる意味でＡレベルから学習することも可能です。

◆Ａレベル：「財務会計　入門Ⅰ」講義から学習開始
◆Ｂレベル：「財務会計　入門Ⅱ」講義から学習開始（「財務会計　入門Ⅰ」講義を省略）

TAC

財務会計－入門Ⅰ
確認テスト　問題

〔解答時間：60分〕

ＴＡＣ商事株式会社の当期（自×５年４月１日　至×６年３月31日）に関する下記の〔資料〕を参照して，以下の各問に答えなさい。

問１　決算整理前残高試算表を作成しなさい。

問２　損益計算書及び貸借対照表を作成しなさい。

〔資料Ⅰ〕　前期末繰越試算表

繰越試算表

×５年３月31日　　（単位：千円）

現金	103,700	支払手形	57,000
当座預金	422,000	買掛金	69,500
受取手形	35,000	未払利息	600
売掛金	107,000	貸倒引当金	1,900
繰越商品	24,000	借入金	60,000
建物	380,000	建物減価償却累計額	205,200
備品	40,000	備品減価償却累計額	22,500
土地	150,000	資本金	800,000
		繰越利益剰余金	45,000
	1,261,700		1,261,700

〔資料Ⅱ〕　当期における期中取引の要約

１．商品売買

(1) 総仕入高は 316,000千円であり，取引は掛によっている。

(2) 仕入戻しを 950千円行い，掛代金が減額された。

(3) 総売上高は 435,000千円であり，取引は掛によっている。

(4) 売上値引を 1,200千円行い，掛代金を減額した。

２．債権債務等

(1) 売掛金 350,000千円を約束手形により回収した。

(2) 買掛金 288,000千円の決済のため，約束手形を振り出した。

(3) 買掛金30,000千円の決済のため得意先の引受を得て，仕入先指図得意先宛の為替手形を振り出した。

(4) 売掛金22,000千円が決済され，代金は他社振出小切手を受け取った。

(5) 受取手形 250,000千円が決済され，代金は他社振出小切手を受け取り，直ちに当座に預け入れた。

(6) 支払手形 260,000千円を小切手を振り出して決済した。

(7) 受取手形20,000千円を銀行で割り引き，割引料が差し引かれた手取額は当座に預け入れた。なお，割引料は年 7.3%，割引日×６年３月22日，決済日×６年５月10日である。

(8) 前期取得売掛金 1,000千円及び当期取得売掛金 2,800千円が貸し倒れた。

３．有価証券

(1) ×５年５月11日に短期売買目的でＡ社株式（購入代価80,000千円，購入手数料 800千円）を取得し，当座により決済した。

(2) ×５年７月29日にＡ社株式すべてを82,100千円で売却し，代金は当座に預け入れた。

(3) ×５年８月25日に短期売買目的でＢ社株式（購入代価50,000千円，購入手数料 500千円）を取得し，当座により決済した。

４．固定資産

(1) ×５年10月26日に建物の一部（取得原価80,000千円，期首減価償却累計額43,200千円）を 31,650千円で売却し，売却代金を当座に預け入れた。

(2) ×５年12月３日に備品20,000千円を購入し，代金は掛（決済日×６年４月３日）とした。なお，当該備品は翌営業日より事業の用に供している。

５．給　料

従業員に対する給料68,750千円を現金で支払った。

６．保険料

×５年11月１日に向こう１年分の保険料 3,000千円を小切手を振り出して支払った。

７．借入金

〔資料Ⅰ〕の借入金は×２年７月１日に借り入れたものであり，利払日６月末及び12月末，借入期間５年，年利率４％である。なお，利息の支払は当座により支払われている。

〔資料Ⅲ〕　決算整理事項

１．決算時における現金の実際有高は56,800千円であった。なお，現金の実際有高と帳簿残高との差額原因は不明であるため，雑損失又は雑収入として処理する。

２．期末商品棚卸高は28,500千円である。

３．Ｂ社株式の期末時価は53,000千円である。

４．売上債権期末残高に対して，２％の貸倒引当金を設定している（差額補充法）。

５．減価償却

(1) 建物は定額法（耐用年数30年，残存価額10％）により減価償却を行う。

(2) 備品は定額法（耐用年数８年，残存価額10％）により減価償却を行う。

６．保険料の繰延が ？ 千円，支払利息の見越が ？ 千円ある。なお，金額は各自推定すること。

財務会計論入門
確認テスト
解答用紙＜１＞

問１　（単位：千円）

決算整理前残高試算表

×６年３月31日

現金	(　　)	支払手形	(　　)
当座預金	(　　)	買掛金	(　　)
受取手形	(　　)	未払金	(　　)
売掛金	(　　)	貸倒引当金	(　　)
有価証券	(　　)	借入金	(　　)
繰越商品	(　　)	建物減価償却累計額	(　　)
建物	(　　)	備品減価償却累計額	(　　)
備品	(　　)	資本金	(　　)
土地	(　　)	繰越利益剰余金	(　　)
仕入	(　　)	売上	(　　)
給料	(　　)	有価証券売却損益	(　　)
保険料	(　　)		
貸倒損失	(　　)		
建物減価償却費	(　　)		
支払利息	(　　)		
手形売却損	(　　)		
建物売却損	(　　)		
	(　　)		(　　)

財務会計論入門
確認テスト
解答用紙＜２＞

問２　（単位：千円）

損益計算書

自×５年４月１日　至×６年３月31日

売上原価	（　　）	売上高	（　　）
給料	（　　）	有価証券評価益	（　　）
保険料	（　　）	有価証券売却益	（　　）
貸倒損失	（　　）		
貸倒引当金繰入額	（　　）		
建物減価償却費	（　　）		
備品減価償却費	（　　）		
支払利息	（　　）		
手形売却損	（　　）		
雑損失	（　　）		
建物売却損	（　　）		
当期純利益	（　　）		
	（　　）		（　　）

貸借対照表

×６年３月31日

現金及び預金		（　　）	支払手形		（　　）
受取手形	（　　）		買掛金		（　　）
貸倒引当金	（△　　）	（　　）	未払金		（　　）
売掛金	（　　）		未払費用		（　　）
貸倒引当金	（△　　）	（　　）	借入金		（　　）
有価証券		（　　）	資本金		（　　）
商品		（　　）	繰越利益剰余金		（　　）
前払費用		（　　）			
建物	（　　）				
減価償却累計額	（△　　）	（　　）			
備品	（　　）				
減価償却累計額	（△　　）	（　　）			
土地		（　　）			
		（　　）			（　　）